

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第 19 号

麦類赤かび病の防除について

麦類の赤かび病対策は出穂期後の適期に防除することが効果的です。本年産の麦類の出穂期は平年より遅いと予想されていますので、赤かび病の防除時期を失しないよう、適期防除に努めてください。

- 1 対象作物：小麦、大麦
- 2 病虫害名：赤かび病
- 3 生育状況および気象情報
  - (1) 3月22日、農林業総合試験場発表の麦類の出穂期は、11月中旬は種の小麦および11月下旬は種の大麦で、今後の気温が平年並で経過した場合、小麦では平年より3～4日程度、大麦で2日程度遅いと予想されている（第1表）。
  - (2) 福岡管区気象台の1か月予報（3月22日発表）によると、向こう1か月の平均気温は1～2週目（3/24～4/6）は高く、3～4週目（4/7～4/20）は平年並～やや高いとされている。また、降水量は平年並～少ないとされている。

第1表 農林業総合試験場における麦類の出穂期（平成30年3月22日発表）

麦種	品種名	播種期	予想出穂期			調査地点
			本年	平年差	前年差	
小麦	シロガネコムギ	11/20	4/10	+4	+3	大木町
	チクゴイズミ		4/13	+4	+7	筑紫野市
	ちくしW2号 (ラー麦)		4/8	+3	+3	大木町
			4/12	+4	+7	筑紫野市

大麦	はるしづく	11/24	4/5	+2	+5	大木町
	ほうしゅん		4/11	+2	+7	筑紫野市

注1) 平年値は H19～H28 年播の平均値。

注2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

注3) 予想出穂期は、今後の気温が平年並で推移した場合の出穂期。

(過去の播種期および出芽期から出穂期までの積算温度と、これまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。)

#### 4 防除対策

- (1) 薬剤防除は、小麦と裸麦（開花受粉性）では開花期（出穂後 7～10 日）、閉花受粉性の二条大麦では、葯骸が押し出されてくる穂揃期後約 10 日（出穂後 12～14 日）に実施する。
- (2) 降雨や曇天が続き、多発が予想される場合は、1 回目防除の 7～10 日後に 2 回目の防除を行う。
- (3) 出穂期は、播種日、品種および今後の気温の変動等により異なるので、第 1 表を参考に、ほ場ごとの出穂状況を把握し、適期防除に努める。
- (4) 液剤は散布後乾くと降雨があっても防除効果は高いが、粉剤は散布後 6 時間以内に降雨があった場合は効果が低下するので、降雨の合間に薬剤防除を行う場合は、気象情報に注意する。
- (5) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる薬剤が多いので注意する。  
また、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。



小麦赤かび病の発生状況（左：小穂、右：穂全体）

○病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。  
「福岡県病虫害防除所ホームページ」 <http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka/>



最新の病虫害発生状況